

第4章 展示演出計画

(1) 基本的な考え方

基本理念をふまえ、「沖縄こどもの国」においては、あそびを通して得た気づきや発想を人材育成につなげていく。

そのために「沖縄こどもの国」では、来園者の気持ちを高め、多様な情報をわかりやすく印象的に伝える展示演出を行う。

「沖縄こどもの国」における展示演出の基本的な考え方は下記の通りである。

「沖縄こどもの国」における展示演出とは

- 動物展示に関する多様な情報を映像や音響、解説等により補完し、より深い理解につなげていく展示
- あそびや体験を通して、気づき、理解につなげていく展示

重視するポイント

「体験」を重視する

自ら体験・行動する要素を加え、来園者の興味・関心を喚起させる。

「驚き」を重視する

動物展示に関する多様な情報を新しい見せ方・伝え方で紹介し、来園者の気づきを促進する。

「知りたい」を重視する

学術的な情報等をわかりやすく紹介し、興味・関心や気づきを理解につなげる。

展開する場所と展示演出の内容

場所	内容
パビリオン	<ul style="list-style-type: none">・ 展示スペースにおける映像、音響、解説パネル、模型、情報端末等による展開。・ 動物展示と融合した展開。・ 気持ちを高めるための導入空間等の演出を行う。
各ゾーンの動物展示 (パドック周辺)	<ul style="list-style-type: none">・ 補完的な展示スペース等における解説パネル、映像、模型等による展開。
園路・園地	<ul style="list-style-type: none">・ ゾーンについて関心を喚起させるサインや映像端末等の設置による展開。

(2) 展開のあり方

展示演出は、来園者の興味・関心の喚起や気づきの促進、より深い理解につなげることを重視している。したがって、多様な情報を来園者に効果的に伝えるために、対象の「属性」と「滞在時間」をふまえ、適切な展開を図る。

■ 対象と効果的な情報の伝え方

対象	効果的な伝え方
こども	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文字よりも映像やビジュアル（写真や絵等）、音声等を重視する。 ・ 体験やあそび等により、「自分でやってみる」要素を加え、興味・関心の喚起につなげる。
大人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文字、映像、ビジュアル（写真や絵等、図解等）、音声等により、多様な情報を伝える。 ・ これまで知られなかった情報や、価値観の転換につながる情報の提供を行い、興味・関心の喚起、気づきの促進につなげる。
外国人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多言語対応及による解説、映像やビジュアル（写真や絵等、図解等）等の言語がなくても伝わる手法を用いる。 ・ これまで知られなかった情報や、価値観の転換につながる情報の提供を行い、興味・関心の喚起、気づきの促進につなげる。
ユニバーサル対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一つの情報を文字と映像、ビジュアル（写真や絵等、図解等）で紹介し、視覚・聴覚で理解できるようにする。
短時間滞在	<ul style="list-style-type: none"> ・ 映像やビジュアル（写真や絵等、図解等）、文字による大きなテーマ解説だけで、基本的な内容が伝わるようにする。
長時間滞在 リピーター対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報端末等を活用し、より深い情報を紹介する。 ・ 何度訪れても新しい情報と出会え、新しい発見があるようにする。

1) 各ゾーンにおける展示演出の展開の考え方

各ゾーンにおける展示演出の展開の考え方について、考え方を下記に示す。

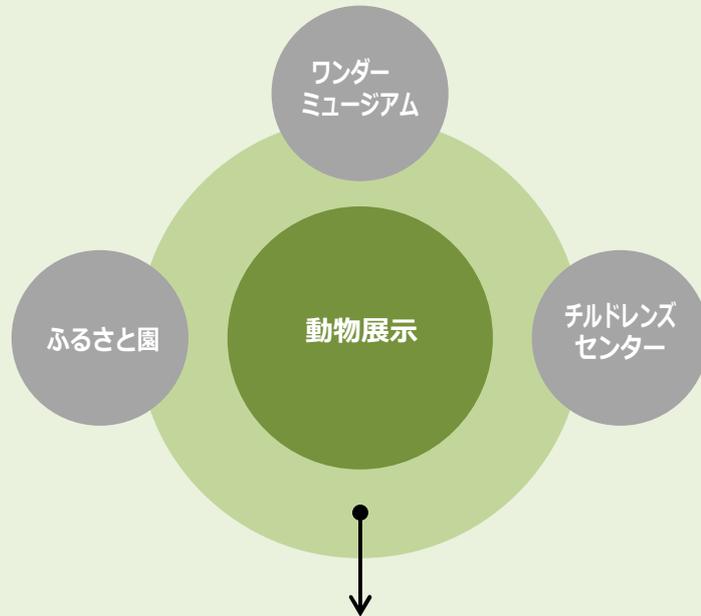
■展開の考え方

中心となるもの (動物展示等)	展示演出		
	「体験」 で発想の扉を開く	「驚き」 で心を動かす	「知りたい」 を伝える
ガイダンス パビリオン	<ul style="list-style-type: none"> 導入空間において「ツナガリウム」を象徴する演出を行い、気持ちを一気に高める。 パビリオンの施設内を基本理念に基づいた世界観で演出する。 		<ul style="list-style-type: none"> 「ツナガリウム」についての紹介（考え方、体験できること、コース、当日イベント、設備等の情報）
日本の自然ゾーン ・琉球弧の場合	<ul style="list-style-type: none"> 琉球王国の時代にタイムスリップしたような演出を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 古民家風建築・庭園等の空間を活かしながら「琉球弧」の動物たちを配置、紹介。かつての暮らしの光景の再現のなかで、動物たちの紹介と動物たちと共に生活をしてきた文化の紹介を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 映像や情報端末等を用いて、「琉球弧」の解説、動物たちの詳細な解説、動物たちと共に暮らしていた光景の写真等の紹介を行う。 情報端末は、来園者それぞれの携帯端末を利用できるようにする。
ジャングルゾーン ・カモフラージュの森の場合	<ul style="list-style-type: none"> ジャングルのなかに迷い込んだような演出を行う。 拡張区域の森林を活かしながら、園路等の来園者滞在空間もジャングルの一部のように表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 園路や照明、サイン、ベンチ等を動物たちの擬態の発想を活かしてデザインする。 レプリカによりゾーンに潜んでいる動物たちを演出し、発見の楽しさを提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ゾーン内で見ることが出来る動物たちや、レプリカによる動物たちの擬態の特徴等について、グラフィックパネルや情報端末等により紹介する。情報端末は、来園者それぞれの携帯端末を利用できるようにする。

(3) 展示演出の展開にあたって

展示演出の方向性と重要要素は、ゾーン構成のテーマにしたがい、デザインディレクションの下、設計において具体的な検討を行う。デザインディレクションは、「第5章 デザインディレクション及びコミュニケーションデザイン計画」において示す。

沖縄こどもの国における展示演出の位置づけ



展示演出の特性

「体験」で発想の扉を開く。

→パビリオン展示、園路・園地の演出 等

「驚き」で心を動かす。

→展示解説、パビリオン展示、園路・園地の演出 等

あそび

「知りたい」を伝える。

→多言語展示解説・情報端末 等

展示演出の効果

**あそびや楽しみを通して、まなびや気づきを促す。
多様な情報を、こども、大人、外国人等の対象を問わず、
わかりやすく、より深く伝えることができる。**